
東京学芸大学先端教育人材育成機構
外国人児童生徒教育推進ユニット
日本語プログラム開発事業
高等学校部会

プログラム開発の 考え方

佐藤紘司（茨城県立石下紫峰高等学校）
齋藤ひろみ（東京学芸大学）

2026年3月21日（土）オンライン開催



日本語
プログラム開発
(高等学校部会)

本資料の利用について
教育・研修を目的とした利用に限ります。資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。

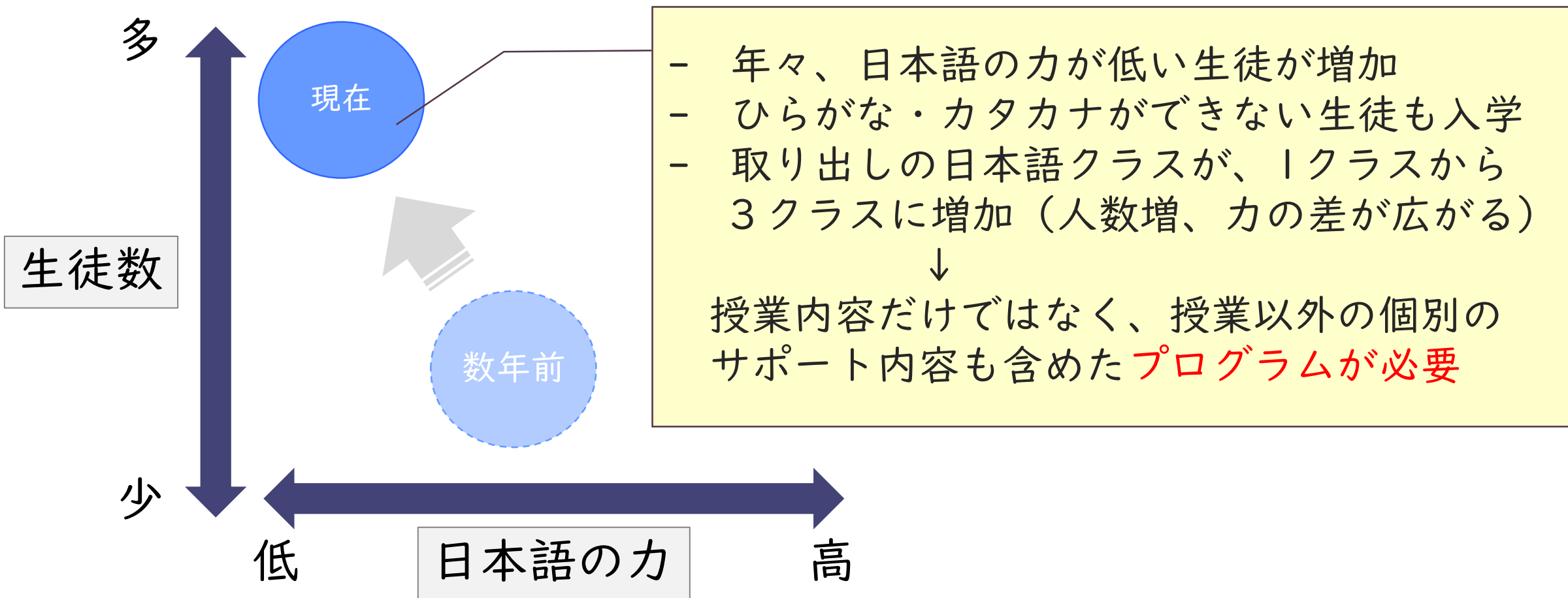
茨城県立石下紫峰高等学校の経験から

- 日本語指導が必要な外国人生徒等が急増（毎年50名程度入学）
- 数年前までベテランの教員がその年の生徒を見て対応していたが、対応しきれなくなった。“感覚”は蓄積されず、引き継ぎの視点からも日本語プログラムの必要性を感じるようになった。
- 先進校のような知見の蓄積がなく、日本語指導専門教員も不在。



茨城県全体で外国人生徒等が急増しているが、日本語プログラムが確立されている学校はない。県全体での作成・共有を検討。

茨城県立石下紫峰高等学校の経験から



1 日本語プログラムの 必要性に 대응するために

東京学芸大学（2023）

『高等学校における外国人生徒等の受入の手引』

『高等学校の日本語指導・学習支援のための
ガイドライン』より

https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_tebiki.pdf

https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf



(1) 日本語を学ぶ意味・ことばの力

ガイドライン p.15

- ① **学校・社会生活**への適応と**コミュニケーション**のための日本語の力の育成
良好な関係を構築し、学校や社会において安全で安心な生活を送れるように、周囲とのコミュニケーションをとり、異文化を理解し適応するための日本語の力を育む。いわゆる生活言語能力に当たる力を獲得する。
- ② **学習に参加し思考**するための日本語の力
教科等の習得・活用・探究の過程に参加し、価値や意味を創造するための日本語の力を育む。教科等の知識・技能も獲得する。
- ③ **自己実現とアイデンティティ**の形成を
多様な言語的文化的背景をもつという特性を対立・矛盾を調整し協働してよりよい社会を創出することを支える。日本語も併せたことばの力を、社会的文脈やキャリア形成に活用する。

日本語を学ぶことを、生活と学習、そして、自己実現・アイデンティティ形成に関連付けて日本語教育を実施するには、**理念と育む力を目標として明確化**した計画が必要。**目標に応じた複数の日本語プログラム**を開発し、組み合わせ・アレンジして実施することを提案。

(2) 日本語指導計画作成の手続き

① **生徒の実態**（日本語・母語、主な教科の学習経験と学力、関心等）を**把握**する。

（日本語指導および教科等の学習支援の要否を決定）

② 修了までの**支援・指導**につ

日本語指導を実施する**科目**の決定

「**特別の教育課程**」による**実施の単**

異文化適応・教科学習支援、キャ

③ 日本語指導を実施する**時間**

④ 日本語指導の**目標を設定**す

修了時の目標及び各学年の目標

入学から卒業までの**見通しをもった教育方針・指導計画に基づき**、教科等の学習や学校の教育活動と連動させて、日本語の教育内容・方法を決定実施することが重要。その実施計画を立てるためのヒントとして、プロトタイプのプログラムを提案

⑤ **指導内容と方法を決定し、プログラム化する。**

⑥ **学習評価の実施時期を決定する。**

外国人児童生徒等への支援
指導の全体的なイメージ 手引p.46

		外国人生徒等への支援・指導
履修計画	個別の指導計画	「特別の教育課程」による日本語の取り出し指導・放課後などの日本語指導
		外国人生徒等を対象にした日本語等に関する学校設定科目 教科の取り出し指導・教科の授業への入り込み指導
		進路指導・キャリア教育、母語母文化教育、多文化共生・社会活動参加への支援
		教科等の授業

(3) 日本語指導が必要な生徒のタイプ

タイプA：日本国内では中学校の教育を受けた経験がない・あるいはほとんどない生徒や、海外から直接入学・編入してきた留学生タイプの生徒である。民族学校やインターナショナルスクールなどから高等学校に進学しているケースを含む

タイプB：来日して3年程度で、日常生活では
ただし、教科等の学習への参加にはまだ十分な日本語
め、教科の学習では内容が理解できないことが多い

タイプC：日本生まれ育ち、あるいは来日して4
語ネイティブの生徒と変わらないコミュニケーションが
等の内容の理解は難しく文章の読み書きに困難がある生

生徒の日本語・母語、認知・学習経験・学力、そして将来像に応じた**日本語プログラムと授業のための活動・ユニットプラン**を作成。対象の生徒の実像に応じてアレンジして実施することを提案

	滞日期間	日本語の日常会話の力	教科学習のための日本語の力	母語等、他の言語の力	教科の知技能等	
A	短い	なし	なし	学年相当	学年相応	生活適応のための日本語指導が開始
B	3年程度	対応可能	不十分	学年相応	学年相応	日本語指導の基礎的内容の補充と教科学習・自己実現のための日本語指導
		十分	不十分	停滞	遅滞	教科学習・自己実現のための日本語指導
C	4年以上(日本生まれ含む)	十分	不十分	未発達	遅滞	教科学習・自己実現のための日本語指導

2 高等学校の教育を通じて どのような若者を育てるか

高校生の場合、**卒業後に日本社会で自己をどのように実現していくのか**という問いが突き付けられる。日本語指導は、単なる日本語の知識・技能の獲得のための教育ではなく、彼らがその多様性とそれまでに培ってきた力や経験を発揮しながら社会に参画し、キャリアを切り拓いていくための「ことばの教育」として実施していく必要性がある。



目指す生徒像を明確化することにより、教育方針、内容・方法の選択、目標設定、実施方法の決定において、共通の方向性をもって取り組める。

(1) 目指す生徒像

多様な言語的文化的背景をもつ高校生を対象とする日本語教育において、目指す生徒像として次の3点を設定して実施することを提案。

- (1) 多様性を強みに、他者と協働して、地域・社会の共生を推進する生徒
 - (2) 主体的に探究活動に取り組み新たな価値を創造し、自律的に学び続ける生徒
 - (3) 社会的存在として自己の目標をもち、粘り強くキャリアを切り拓く生徒
-

(2) 日本語の目標設定 (学習指導要領に基づき)

「目指す生徒像」に基づき、ことばの力の3側面(スライド5)を発達させるために、日本語指導を通じて次の資質・能力を育成することを目指します。

- (1) 日本語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて理解し、これらの知識を日常のコミュニケーション場面で、社会や他者との関わり、行動目的、場面・状況に応じて運用するための基礎的な技能を身に付ける。
(知識・技能)
 - (2) 教科等の学習や自身のキャリア形成において、自身の経験や母語の力を活用しつつ、日本語で問題解決に取り組み、探究を通じて得られた創発や・創造したことを日本語で表現することができる。(思考・判断・表現力)
 - (3) 日本語の学習を通じて、日本社会や日本の文化について理解するとともに、物の捉え方や視点に応じて言語や表現方法を選択するなどして多様性を活かしてコミュニケーションを行い、新たに育んだ関係や学んだことを、自身の人生や多文化共生社会の構築に活かそうとする。(学びに向かう力・人間性)
-

3 日本語プログラムと 活動・ユニットプラン

東京学芸大学（2023）

『高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン』より

https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf

(1) 日本語プログラム ガイドラインpp.117-134

プログラムA 「生活のための日本語」

来日後の日本での学校・社会生活を送るために必要な基本的な日本語の語彙・表現を学ぶプログラム。日本語を使って困難や問題を解決するために行動できるようになることを目標とする。

プログラムB 「日本語基礎」

日本語の基礎的な構造・意味・機能を理解し、生徒の生活場面や学習場面で運用できるようになることをねらいとする。日本語基礎は日本語の学習経験がない生徒を対象とし、順にⅠ→Ⅱ→Ⅲと積み上げて学ぶように構成されている。

プログラムC 「技能別日本語」

まとまりのある内容の文章・談話を聞いたり、話したりする力、そして、読んだり書いたりする力、を高めるプログラム。タスク(課題)を設定し、そのタスクを遂行するプロセスで、学習した日本語の基礎的な構造・意味・機能に関する知識を活性化し運用することを促す。

プログラムD 「日本語プロジェクト」

外国人生徒が共生社会の一員として自己を実現し、よりよい社会をつくるために、実際に問題・課題を解決する活動(プロジェクト)を通して、思考し、判断し、表現するためのことばの力を高めることをねらいとする。

(2) 活動・ユニットプランの開発

プログラム A 「生活のための日本語」

プログラム B 「日本語基礎」

プログラム C 「技能別日本語」

プログラム D 「日本語プロジェクト」

今回作成

プログラムB・プログラムDについて、次年度に開発

(3) プログラムの学習項目

ガイドラインpp.117-134

プログラムA 「生活のための日本語」

プログラムAの学習項目案 (一部)

- 来日直後、日本語を学習したことがなく、日本の学校生活も初めての生徒向け
- 日常生活や学校生活などで戸惑い困っている場面を取り上げ、状況を理解するための知識・情報を提供。その困難を解決するための日本語の語彙・表現を学び、困難を解決する力を身に付けることを目標とする。
- いわゆる日本語の初級語彙・表現だけでなく、高校生としての語彙・表現も取り上げる

テーマ↔	場面・状況↔	
健康・衛生・安全↔	トイレ↔	トイレ、いいですか どう?
	体調↔	お腹/頭 いたい/気持
	食事↔	アレルギー 栄養 好き
	生理↔	ナプキン ピル 生理痛
	インフルエンザ・コロナ↔	マスク 手洗い うがい
	男女交際↔	恋愛 交際 妊娠 避妊
社会生活↔	いじめ↔	いじめ 相談 生徒指導
	交通↔	電車 バス 自転車 徒歩
	交通ルール↔	信号 交差点 横断歩道
	事故↔	事故 警察 救急車 呼
	災害↔	地震 火事 津波 洪水 逃げろ 逃げて ↔
	危険な場所↔	危険 人が少ない 暗い
	犯罪↔	窃盗 暴行 サイバー
	宗教↔	信仰 お祈り ハラルフ
	スマホ↔	料金 契約 個人情報 教えてください 考えま
アルバイト↔	時給 労働条件 曜日 日 いくらですか? 何時か	
施設↔	市役所 図書館 公民館 どこ? どう行く? ↔	

プログラムC 「技能別日本語」

- 4技能（聞く・話す・読む・書く）別のタスクで構成
- 高めたい具体的な技能を決定し、その日本語の技能をもってどのようなタスクを達成できるようにするか目標として設定
- 1つの技能だけで活動を行うことはないが、どの技能に重点化するかを意識して授業を実施するタスク
- 1つのタスクが1回の授業で実施する大きさの活動
(プログラムDは数時間をかけて1つのタスクを実施)

技能	番号	タスク例と具体的な技能	語彙・表現
聞く	L-1	時事問題に関するテレビやネットの動画ニュースを見聞きする。 ニュース内容の大意をとるためにワークシートにメモをしながら聞く。(報道記事)	聞き取る項目を準備しておく。
	L-2	ニュース動画を見て、何が起きたかを知る。 起こった事件や出来事について、ディクテーションをしながら詳細を聞き取る。	詳細に聞いてほしいワークシートを準備
書く	W-7	今まで一番うれしかったことや悲しかったことなどについて原稿を書く。 具体的なエピソードを交え、起承転結を意識して原稿を書く。(スピーチ) ※S-4と組み合わせる	この度は OB さん、ご連絡いただき、ご経験について話 今まで一番の感情のことは(ワ この経験を通し した。
	W-8	希望する進路に関する年間の予定をスケジュールシートに記入する。(キャリア関連)	職場体験・オー 試の日程、履歴 彙等
	W-9	自己アピールを履歴書に書く。 自分の長所と短所を書く。(キャリア関連) ※S-7と組み合わせる。	アピールに関する ある、責任感が 軟性がある)
	W-10	志望動機書(就職)を書く。(キャリア関連) ※R-9と組み合わせる。	志望理由や抱負 ～のは…からで ～に魅力を感じ 入社後は(貴社 でいきたいと考 思っております。 敬語表現

(4) 活動・ユニットプランの構成

例1) プログラム(A) ユニット・活動案「履修計画」

1 対象生徒・授業科目	
対象生徒 タイプA	年齢 15-16 学年 1 滞日期間 6か月未満 日本語の力：ステップ(1) ※文科省「ことばの力のものさし」 包括的な言語の力：ステージ(E)
授業・科目名 (例) (日本語 I)	クラス規模：() 個別 (○) 小グループ () クラス規模 教科等との関連：出欠・単位修得との関係 外部支援の有無：面談や行事の説明等

<タイプAの生徒の場合>

滞日期間が短く、日本語学習経験がほとんどない生徒を対象にイメージしたものです。
学年相応の母語の力や思考力などがあり、言語を分析的に捉えることや、自分で学習する力があることを想定しています。

	1年	2年	3年	4年
プログラムA「生活のための日本語」	→			
プログラムB「日本語基礎」	→	→	→	→
プログラムC「技能別日本語」		→	→	→
プログラムD「日本語プロジェクト」		→	→	→

☐2 プログラム概要

プログラム名(タイプ)	生活のための日本語
時間	(20)分×(2)
タイトル (活動・ユニット名)	履修計画を立てる
目指す生徒像	(主に該当するもの) 3)社会的存在として切り拓く生徒
目標	(3つの資質・能力目案1の1) 単位履修に関する言をもらい、3年間の
言語事項(語彙、文法/文型、文章・談話に関わる項目)	語彙:履修計画 単表現:〇年生で、(科目)卒業までに、〇単履修の計画を1見てください。
教材・教具	時間割、履修計画表、

活動展開 ※留意点	言語運用例
1 時間目(20分) ①履修計画例を読み取る 実物を示して、語・表現を提示する。 やりとりで履修計画を読み取りを促す。 ※対象生徒の履修の希望に近い例を準備する。 ②自分の履修計画を立てる。 ①と同じやり取りをしながら、自身の履修計画を立てるように促す。	①T:〇〇さんは、卒業までに、何単位、取りますか。 S:〇単位 取ります。 T:1年生でどの科目を取りますか。 全部で何単位ですか。 S:〇年生で、(科目)を取ります。 〇単位です。 ②T:履修計画を立てましょう。 どの科目を取りますか。

本日紹介する活動・ユニットプラン

- 1 プログラムA 「校則について知ろう・話そう」
青木由香 （荒井学園高岡向陵高等学校）
- 2 プログラムC 「私の引越しトランク」
川上さくら （大阪市立大阪わかば高等学校）
- 3 プログラムC 「自己アピールを書こう」
五十嵐恵美 （愛知県立御津あおば高等学校）

生徒の入学から卒業、そして進路までを見据え
日本語学習の連続性に留意し、
教科等学習との関連・相乗性を重視して
生徒のもつ多様な経験と人間力と学ぶ力が活かされるように